

タイトル 担い手金融の取組み

 JA名 JAバンクあきた

1 動機 (経緯)	<p>秋田県は、農家数が年々減少してきており、特に農業就業人口に占める65歳以上の割合が約6割を占めるなど、高齢化の進行が今後の県内農業における深刻な問題として捉えられております。JAバンクあきたでは、こうした背景のもとに農業担い手層への金融対応策として、各JAの「担い手金融リーダー」を軸に、営農・経済部門における「TAC」等の連携を強化し、農業担い手層にかかる情報の共有化を図りながら、適切な金融対応を行っていくこととしております。</p>
2 概要	<p>「農業のメインバンク」としての地位確立・機能発揮を目指してJA・農林中金が一体となって担い手金融強化に取り組むこととしています。</p> <p>主な活動としては、</p> <p>秋田県JA農業機械大展示会（毎年6月に3日間の日程）</p> <p>秋田県種苗交換会（毎年11月に一週間の日程）</p> <p>を春・秋の一大イベントとして、県内JA担い手金融リーダーによる担い手コーナーを設置して農業の相談対応を実施しています。</p>
3 成果 (効果)	<p>第22回秋田県JA農業機械大展示会（平成21年6月17日～19日）</p> <p>179名の方々から相談ならびにアンケートを頂戴いたしました。</p> <p>同展示会における農業機械成約金額は約17億円でした。</p> <p>第132回秋田県種苗交換会（平成21年10月30日～11月5日）</p> <p>335名の方々から相談ならびにアンケートを頂戴いたしました。</p> <p>同交換会における農業機械成約金額は約23億円でした。</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>担い手向け金融機能の強化は、信用事業のみで進めていくことは困難であり、営農・経済部門をはじめとする各部門との連携が不可欠です。これは、JA内連携は無論のこと、県段階、全国段階でも必要なことと考えられます。</p> <p>JAバンクあきたとしては、行政および系統農業団体等との連携を更に強固なものとし、県域における農業の将来と系統組織全体の基盤強化を図ってまいりたいと考えております。</p>